

みえメディカルバレー構想 第3期実施計画

平成24年3月

みえメディカルバレー推進代表者会議

目 次

みえメディカルバレー構想について	1
1 みえメディカルバレー構想	1
2 みえメディカルバレー構想実施計画のあゆみ	1
3 今後の展開	2
みえメディカルバレー構想第3期実施計画	4
1 現状認識	4
2 みえメディカルバレープロジェクトの成果と課題	5
3 めざす姿	6
4 基本方向	6
5 実施期間	8
6 基本方向を実現させるための事業	8
7 事業目標等	13
8 評価・検証	14
参考資料	15
第1期実施計画の事業と成果	15
第2期実施計画の事業と成果	22
これまでのみえメディカルバレーの成果	28
みえメディカルバレー構想の年表	31
みえメディカルバレー推進代表者会議委員名簿	40
みえメディカルバレー企画推進会議委員名簿	41

みえメディカルバレー構想について

1 みえメディカルバレー構想

みえメディカルバレー構想は、医療・健康・福祉産業を戦略的に振興することにより、本県の地域経済を担う新たなリーディング産業の創出と集積を図るとともに、医療・健康・福祉に関連した質の高い製品・サービスを供給できる地域づくりをめざしています。

この構想は、産学官協働で組織する「メディカルバレー構想策定検討委員会」（会長：三重大学学長）の検討をふまえ、平成14年2月に県が策定したもので、同年4月からみえメディカルバレープロジェクトとして、様々な事業を産学官民で実施しています。

基本理念

地域資源を有効に活用し、競争力のある医療・健康・福祉産業の振興に取り組み、活力ある地域づくりと県民の健康と福祉の向上をめざします。

2 みえメディカルバレー構想実施計画のあゆみ

平成14年度から19年度を第1期実施計画「立ち上げ期」、平成20年度から22年度を第2期実施計画「基盤整備期」として位置づけ、ソフトインフラ整備を中心とした事業を産学官民連携の体制で展開してきました。

第1期実施計画、第2期実施計画では、次のような事業を実施しました。

(1) 産学官民連携体制の構築

医療・健康・福祉産業の創出と集積を目的に、県内の大学・高等専門学校、企業、市町等とのネットワークを構築するとともに、研究開発が可能な体制を整備しました。

(2) 研究開発の支援

産学官民それぞれが自立的な取組を展開できるように、健康・福祉関連製品の販路開拓の支援、共同研究の支援、治験受入体制の構築などを実施しました。

(3) 拠点整備の支援

研究開発を促進するため、鈴鹿医療科学大学による薬学部の設置などの拠点整備の支援を行いました。

(4) 具体的な取組事例

人的ネットワークを構築するための「メディカルバレーフォーラム」の開催
研究開発のスタートアップにつなげる産学官の出会いの場を提供する「みえメディカル研究会」の開催

県の大学研究者等への研究開発委託による、製品開発の促進

県の補助による、企業が行う産学官共同研究の促進

県の支援による、製品・サービスの販路開拓の促進

三重大学を中心とした新薬開発のための治験ネットワークや、そのネットワークを活用した機能性食品の評価システムの構築などの支援

三重大学の生命科学研究センター創設による、バイオ分野の研究開発の促進

三重大学のインキュベーション施設設置による、ベンチャー企業起業の支援

鈴鹿医療科学大学の薬学部設置による、人材育成や研究開発の促進

三重大学の伊賀研究拠点設置による、伊賀地域の研究開発の促進

三重大学「大学院地域イノベーション学研究科」設置による、人材育成の促進

鳥羽市における健康ツーリズムなどの取組の支援

尾鷲市における海洋深層水活用など市町の取組の支援

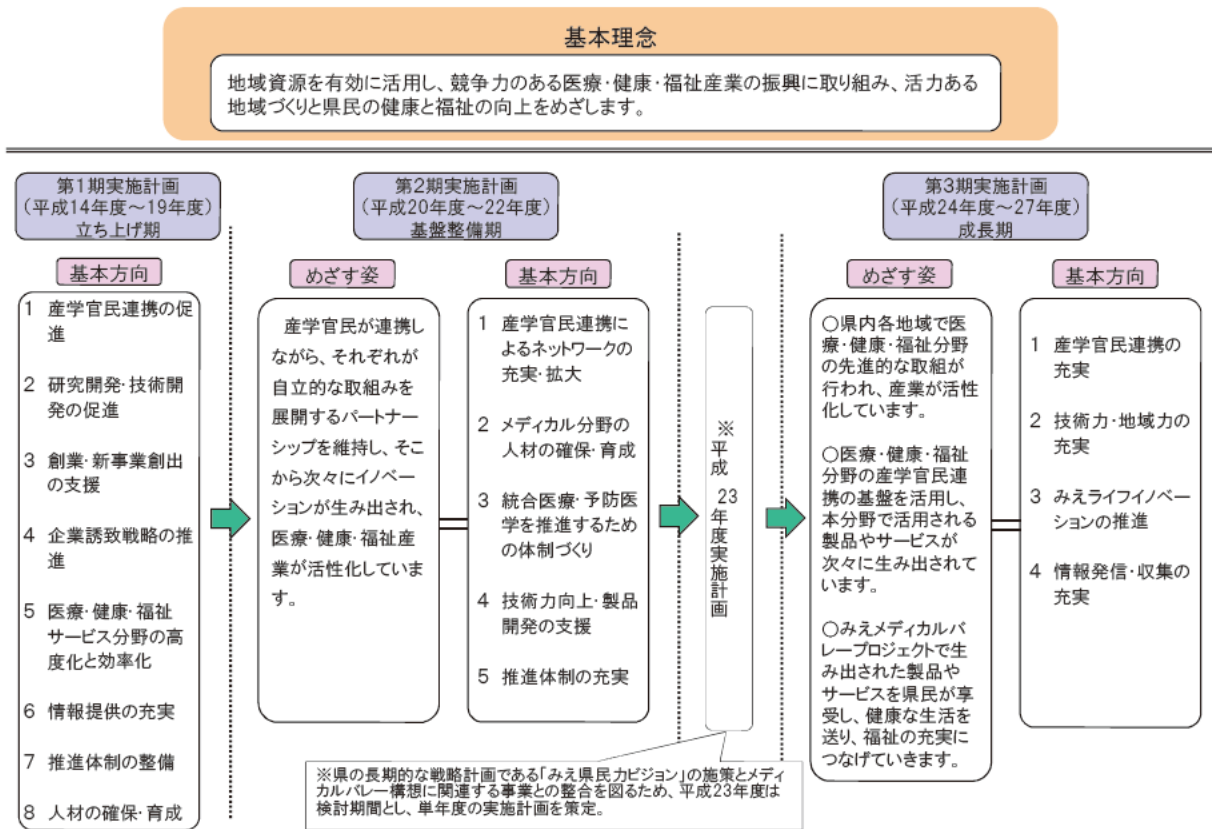
3 今後の展開

みえメディカルバレープロジェクトで構築した基盤を更に充実・拡大し、今後は県民の健康と福祉の向上に繋がる製品やサービス等が継続的に創出されるしくみを構築するため、平成24年度から27年度の4年間の第3期実施計画を策定し、「成長期」として事業を展開していきます。

第2期実施計画の終期は平成22年度であり、第3期実施計画は平成23年度から開始する予定でしたが、県の長期的な戦略計画である「みえ県民力ビジョン」の施策とメディカルバレー構想に関連する事業との整合を図る必要があったため、平成23年度中に第3期実施計画を策定し、平成24年度から事業を開始することとしました。このため、平成23年度は、単年度の実施計画を策定しました。

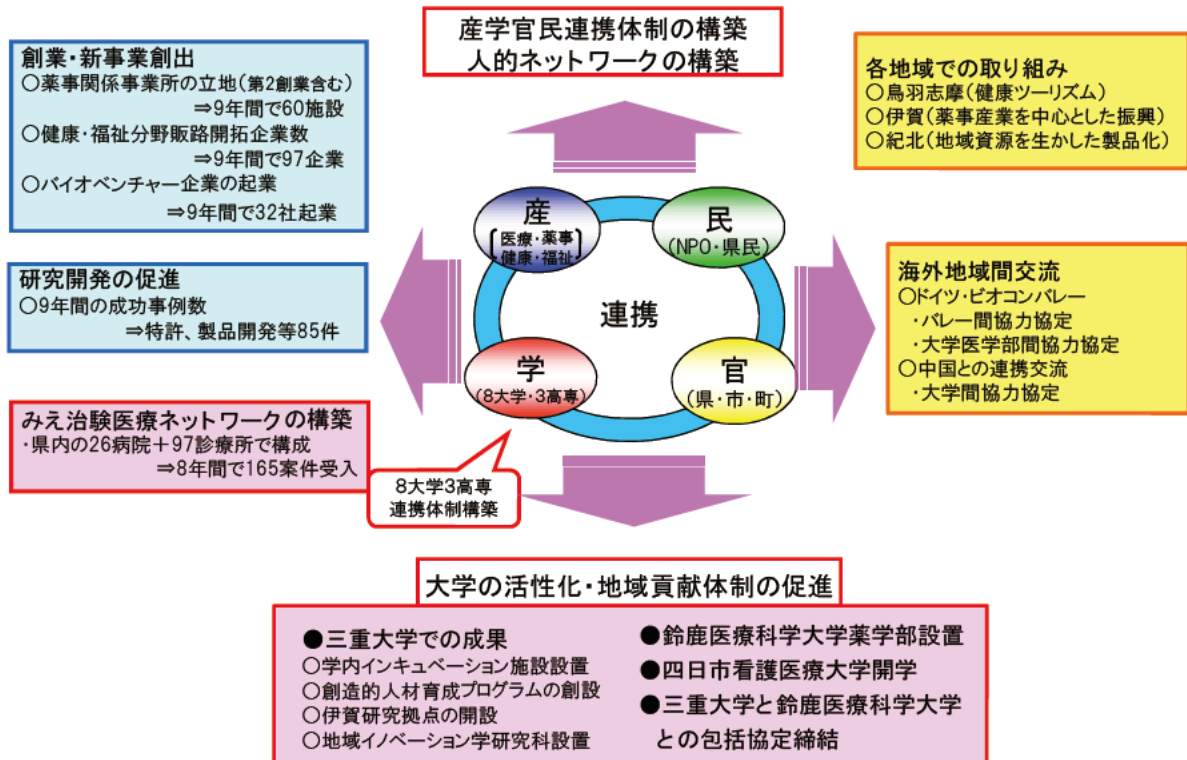
《図1》

みえメディカルバレー構想 実施計画の推移



《図2》

みえメディカルバレー構想の成果



みえメディカルバレー構想第3期実施計画

1 現状認識

(1) 県内産業

平成20年秋に発生した世界同時不況の影響により、同年の一人あたりの県民所得は全国一の下落率となりました。雇用においても、平成21年6月の有効求人倍率は過去最低の0.40倍にまで低下しました。

一方、薬事産業をみると、全国の医薬品製剤製造品出荷額は頭打ちの状態になっているものの、三重県の出荷額は、平成14年から21年の8年間で、2.3倍に伸びており、不況に関わらず堅調な成長を続けています。

県内には、素材・部材産業から加工組立産業に至る生産・研究施設の集積や高い技術力で全国や世界に高いシェアを誇る中小企業が多く存在することから、この技術を生かして、医療・健康・福祉産業分野への参入を促すとともに、既存の薬事産業の体質を更に強化することにより、県内産業の競争力を強め、強じんな構造にしていくことが重要です。

(2) 新成長戦略

平成22年6月18日に閣議決定された国の「新成長戦略」において、医療・介護・健康産業*は高い成長と雇用創出が見込める日本の成長牽引産業として位置づけられています。

*みえメディカルバレー構想及び実施計画では、介護を含む幅広い福祉分野としてとらえ、医療・健康・福祉産業としています。

経済状況の影響を受けて、自動車産業へ部品供給をしてきた企業をはじめとする、県内のものづくり企業の状況は思わしくありません。このため、多くのものづくり企業は、保有する高い技術力を生かして、医療・健康・福祉分野の産業への進出など新たな分野への進出を模索しています。これらの状況は、新たなものづくり産業を育てるチャンスでもあります。

また、高齢者や障がい者の生活の質の向上やその介護者の負担軽減も望まれており、ニーズに応える様々な福祉・介護機器やサービスの提供が期待されています。

(3) 健康意識

高齢化及びメタボリックシンドロームを背景とする生活習慣病の増加は県民の生活の質に重大な影響を与えるばかりでなく、社会的コストの増大を招いており、予防から治療まで一貫した取組が必要です。

しかし、このような取組を進めるにあたり、セルフメディケーションの住民への普及・啓発不足、健康増進による医療費削減のエビデンス（科学的根拠）を示す統計データの不足、健康増進に向けた取組へのインセンティブの不足などの課題も指摘されています。

これらのニーズや課題に応えられるような治療用医薬品等の開発や、セルフメディケーションを促す医薬品、様々な機能のある食品、健康サービスなどの提供が期待されています。

2 みえメディカルバレープロジェクトの成果と課題

第2期実施計画では、産学官民の連携によるネットワークの充実・拡大
メディカル分野の人材の確保・育成
統合医療・予防医学を推進するための体制づくり
技術力向上・製品開発の支援
推進体制の充実
の5つを基本方向として事業を展開しました。

その結果、伊賀地域や鈴鹿地域での産学官民の新しいネットワークの構築やみえ治験医療ネットワークを活用したビジネスモデルの事業化など、多くのネットワークや、ものづくりを生み出す基盤が構築されました。

また、第2期実施計画ではめざす姿を、「産学官民が連携しながら、それぞれが自立的な取組を展開するパートナーシップを維持し、そこから次々にイノベーションが生み出され、医療・健康・福祉産業が活性化しています。」として、事業を進めました。

しかし、めざす姿にある「次々にイノベーションが生み出され」として展開した部分が不十分であり、更に先進的な取組が行われる必要があります。また、次のような課題もあります。

産学官民の更なる有機的な連携の充実
県内の中小企業等の技術力や製品開発力の向上
地域資源の活用や地域の特色を生かした取組の充実
みえメディカルバレープロジェクトを効果的に推進する人材の確保・育成

- 革新的な製品を生み出すための医療情報活用基盤の構築
- 医療・健康・福祉分野の製品やサービスなどの開発等を産学官民が連携して生み出すしくみの構築
- 異業種からの医療・健康・福祉分野の産業への新たな参画を促すしくみの構築
- みえメディカルバレープロジェクトの地域内外への情報発信の充実

これらをふまえ、第3期実施計画のめざす姿や基本方向を設定する必要があります。

3 めざす姿

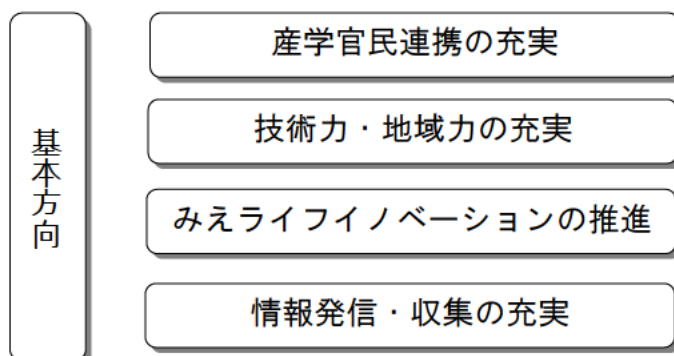
第3期実施計画では、第2期実施計画のめざす姿をより明確に表現し、イノベーションを生み出すための展開を進めるため、次の3項目とします。

- 県内各地域で医療・健康・福祉分野の先進的な取組が行われ、産業が活性化しています。
- 医療・健康・福祉分野の産学官民連携の基盤を活用し、本分野で活用される製品やサービスが次々に生み出されています。
- みえメディカルバレープロジェクトで生み出された製品やサービスを県民が享受し、健康な生活を送り、福祉の充実につなげています。

4 基本方向

めざす姿を実現するため、第2期実施計画での課題をふまえ、次の4つの基本方向を柱として事業を展開します。

特に、質的・量的にニーズが拡大し、潜在的市場価値の高い医療・健康・福祉分野については、ライフイノベーションを通じて、新たな産業の創出につなげることができると考えられることから、「みえライフイノベーションの推進」に関する事業に重点的に取り組みます。



(1) 産学官民連携の充実

医療・健康・福祉産業の創出と集積を目的に、みえメディカルバレー構想に基づき、産学官民連携体制の充実・拡大を図り、広い裾野をもった強い産業構造を構築していきます。

大学等との連携を更に充実するとともに、県内各地域の関係団体や異業種分野の参入なども促進します。

(2) 技術力・地域力の充実

県内中小企業、ベンチャー企業の技術力、製品開発力の向上を図ります。

県内各地域の課題等を大学等の強みや産学官民連携体制を活用して解決していきます。

大学等のカリキュラムを活用し、企業や地域が必要とするスキルを習得した人材の育成やインターンシップ制度を活用して人材の確保を図ります。

(3) みえライフイノベーションの推進

今までに構築された治験ネットワークや大学等の知的拠点を活用し、県民の健康と福祉の向上に繋がる製品やサービスが次々に生み出されていくしくみを構築し、本分野の企業の経営基盤の強化や異業種分野からの転換、企業誘致などを促進し、県内のライフイノベーション*を推進します。

*ライフイノベーション：

医療・健康・福祉分野で、新しい技術や考え方を取り入れて新たな価値を生み出し、社会的に大きな変化を起こすことをいい、革新的な医薬品、医療機器、医療・介護技術等の研究開発の促進や関連産業の活性化をめざすものです。

(4) 情報発信・収集の充実

各事業の情報、県内地域の特色ある取組、先進的な事例やみえメディカルバレープロジェクトで生み出された製品やサービスなどの成果をホームページ、メールマガジン、情報紙などにより、積極的に発信していきます。

また、各種展示会への参加や先進地調査等により医療・健康・福祉分野の情報を収集します。

5 実施期間

第3期実施計画の実施期間は、平成24年度から27年度の4年間とします。

6 基本方向を実現させるための事業

第3期実施計画の基本方向を実現していく具体的な事業を下記のとおり想定しています。これらの事業は、現時点で適当と考えられる事業の例示であり、実際の事業はその時点の状況を考慮して検討するものとします。

これらの事業は、産学官民がそれぞれ主体的に、また、有機的な連携のもとに取り組むものとします。

【 】内は、事業の主体者を示す。

(1) 産学官民連携の充実

フォーラム、セミナーの開催

医療・健康・福祉産業に関わる県内外の産学官民が一堂に会し、講演、シンポジウムや交流会等の開催により情報の共有を図るとともに人的ネットワークを広げます。

みえメディカルバレーフォーラムの開催 【行政、大学等、企業】

セミナーや市民講座の開催 【大学等】

地域セミナーの開催 【行政、大学等】

メディカルバレー推進体制の充実

みえメディカルバレー構想を効果的に推進するため、産学官民関係者による推進体制の充実を図ります。

みえメディカルバレー推進代表者会議 【行政、大学等、企業、関係団体】

みえメディカルバレー企画推進会議 【行政、大学等、企業】

(2) 技術力・地域力の充実

事業者への支援

医療・健康・福祉産業分野の経験豊かな人材をメディカルバレー推進サポーターとして委嘱し、技術支援や新たな製品やサービス等の販路開拓、販売促進支援などを実施します。 【行政】

各種専門研修会等の開催

メディカルバレー関連分野の高度化をめざし研究開発や技術支援、マーケティング技術の習得を行うため、各種専門研修会等を開催します。また、異業種からの参入する場合の障壁となるため薬事法等の関連法令に関する説明会、許可支援研修会等の開催を通じて異業種参入を支援します。 【行政】

産学官民参加型研究会の開催

医療・健康・福祉産業分野での産学官民参加型の研究会を開催し、新たな研究開発・技術開発の促進をめざします。 【行政、大学等、企業】

治験ネットワークの活用

三重県における治験を推進するため、みえ治験医療ネットワークシステムの強化、県民への普及啓発や治験協力者への支援を行います。【NPO、行政、大学等】

全国の治験ネットワークと連携、情報発信・収集することにより治験の推進に寄与します。 【行政、NPO、大学等】

みえ治験医療ネットワーク推進会議の開催 【行政、NPO、大学等、関係団体】

みえ治験医療ネットワークを活用し、医薬品、医療機器、化粧品、機能性食品、健康サービスまで幅広い分野のエビデンス（科学的根拠）を確立します。

【NPO、大学等、企業】

予防医学を活用した産業の推進

今後進展が予想される予防医学を広く県民に持続的に啓発していくため、予防医学に関連する住民グループや、医療関係者も加わったネットワークによる、三重県型予防医学に関連したビジネスモデル化を推進し、県内の医療・健康・福祉産業の活性化と県民の健康増進につなげます。

【行政、大学等、企業、NPO】

オープンラボの整備

企業の研究開発を支援するため、試験や分析等のためのオープンラボの整備を進めます。 【行政、大学等】

福祉ものづくりの促進

みえテクノエイドセンターを中心に福祉用具の普及啓発、情報収集、ニーズ収集、試作品・製品の評価・モニタリング、自助具の製作などを実施します。

【行政、NPO、大学等、関係団体】

福祉用具・ものづくり研究会を活用し、福祉ものづくり分野の産学・産産連携を促進します。

【行政、大学等、企業、関係団体】

人材の育成

企業が必要とする技術、研究開発能力などのスキルの習得、向上のための研修会等を開催します。

【企業】

大学のカリキュラム等を活用し、地域が必要とする社会人のスキルアップ、大学院及び学部学生への起業家マインドの教育などにより企業が必要とする人材を育成します。

【大学等】

県内企業と連携し、見学会、インターンシップ活動などを実施し、県内企業への就職を促進します。

【大学等、企業、行政】

商談会・マッチングの促進

国内外の展示会等に出展・参加し、商談会やマッチングを実施します。

【企業】

共同研究の促進

大学のコーディネータの活動により共同研究を促進します。

【大学等、企業】

地域資源の有用性の研究

薬用植物等の植物資源や海洋生物資源などの地域の天然資源の有用性の研究を進めます。

【行政、大学等、企業】

技術移転、特許出願などの促進

TLO、大学知財部門の活用により、技術移転、特許出願などを促進します。

【企業、大学等】

地域の特色を生かした取組

各地域のポテンシャルや特色を生かして、地域産品が生まれていく基盤の整備を進めます。

【行政、大学等、企業】

(3) みえライフイノベーションの推進

医療・福祉機器等の研究開発・実用化の促進

医療・福祉産業の振興と医療・福祉現場の作業環境の改善や高齢者・障がい者の生活の質の向上を図るため、医療現場や福祉・介護現場で必要とする医療機器、介護・福祉機器等のしくみを構築し、製品やサービスを開発します。

【行政、大学等、企業】

地域資源活用型医薬品等の開発の促進

地域資源を有効活用した医薬品、医薬部外品、化粧品の開発をすすめ、地域産業の活性化と地域資源のブランド化をめざすとともに、セルフメディケーション（健康自主管理）を推進します。

【行政、大学等、企業】

付加価値の高い食品等の開発の促進

生活習慣病予防や医療・介護現場で必要とされる食品など付加価値の高い食品の開発をすすめ、新たな食品産業の創出と活性化を図ります。

【行政、大学等、企業】

健康増進プログラム等の開発の促進

大学等と協働で科学的根拠に基づいた健康増進プログラムの開発と県民への動機付け及びその持続を促す方法を確認し、関連機器やサービスの開発、普及のしくみの事業化を図ること等により地域事業者の新たな健康関連サービス産業への参入を促します。

【行政、大学等、企業】

健康ツーリズム等の促進

県内各地域で特徴のある予防医学、健康増進をめざした新しい形態の旅行を確立し、普及啓発を行い、県民の健康維持・増進に貢献します。

【行政、大学等、企業】

オーダーメイド医療・健康を支える基盤の創出

三重県にすでに整備されている、治験ネットワークや乳がんネットワーク、病診連携などの医療系ネットワークを有機的に連携し、バイオバンクや診療情報、健康情報を集約し、エビデンス（科学的根拠）を確立する等の評価・製品化支援システムを構築し、付加価値のある信頼性の高いデータを提供します。このデータを医薬品や保健食品、医療サービス等の試作や製品化に活用していくことで、オーダーメイド医療や予防医療の推進に貢献します。

【行政、大学等、企業】

研究コンソーシアムによる研究開発促進

必要に応じて案件毎に研究コンソーシアムを結成し、研究開発を促進するなどライフイノベーションを推進します。 【行政、大学等、企業】

(4) 情報発信・収集の充実

総合的な情報の発信

みえメディカルバレープロジェクトに関する総合的な情報をホームページ、メールマガジン、情報紙、パンフレット等により提供します。 【行政、大学等】

市民講座を開催し、健康・医療・福祉分野の動向、最新情報などを県民向けに提供します。 【大学等】

国内クラスター等の取組情報収集

国内各地における医療・健康・福祉分野の振興に取り組むクラスター等から情報を収集することにより、みえメディカルバレープロジェクトの効果的な事業の推進に反映します。 【行政、大学等、企業】

海外との交流、情報収集

産学官が連携して、今後の発展が期待される海外の医療・健康・福祉分野における技術連携や協働研究、市場開拓などの情報を収集し、他地域における関係機関との情報交換を進めます。 【行政、大学等、企業】

海外の大学、研究施設との交流により、研究者、留学生の交流を促進します。 【大学等】

海外との事業者との技術交流や市場開拓、販路拡大などの活動を行います。 【企業】

7 事業目標等

(1) 事業目標

第3期実施計画を実施するうえで、取り組んだことの効果がわかる指標として、次の3項目を設定します。

医療・健康・福祉分野の製品開発取組数

県内事業者等が、医療・健康・福祉分野の製品やサービスに取り組んだ数

(出典：三重県健康福祉部薬務食品室調べ)

・平成24年度から27年度までの目標値 32件

治験受入件数

みえ治験医療ネットワークに登録している医療機関で、NPO法人みえ治験医療ネットを介して受け入れた治験契約数

(出典：NPO法人みえ治験ネット調べ)

・平成24年度から27年度までの目標値 100件

企業立地・第2創業数

三重県に立地した薬事等関係事業者数及び異業種から薬事関係への(第2創業)数

(出典：三重県健康福祉部薬務食品室調べ)

・平成24年度から27年度までの目標値 20件

(2) 参考指標

第3期実施計画による活動が直接的に反映されるものではありませんが、次の2項目の経済指標を全国値と比較することで、事業の効果の参考とします。

医薬品生産金額

【三重県】平成22年：1,227.45億円

【全国】平成22年：67,790.99億円

(出典：厚生労働省 薬事工業生産動態統計調査速報値)

医療機器生産金額

【三重県】平成 22 年： 34.86 億円

【全 国】平成 22 年： 17,134.39 億円

(出典：厚生労働省 薬事工業生産動態統計調査速報値)

8 評価・検証

第 3 期実施計画は、4 年間にわたり産学官民連携で事業展開をしていくことから、取組全体のしくみや成果について、次のように評価と検証を行っていきます。

なお、評価にあたっては、事業の結果のみを評価するのではなく、プロセスについても評価と検証を行うものとします。

(1) 年度事業計画の評価と検証

第 3 期実施計画に基づき毎年度作成する年度事業計画により実施した事業の結果について、評価と検証を行い、次年度事業計画に反映します。

(2) 中間評価と検証

第 3 期実施計画により実施した 2 年間の事業の結果について、平成 25 年度に評価と検証を行います。その結果や社会情勢の変化や医療・健康・福祉産業を取り巻く動向等を踏まえ、具体的な取組内容や事業目標等について、必要に応じて見直しを行います。

(3) 4 年間の評価と検証

第 3 期実施計画により実施した 4 年間の事業の結果について、平成 27 年度に評価と検証を行い、これを踏まえて次期実施計画を策定します。

なお、必要に応じ、外部専門家による評価と検証も実施します。

参考資料

I 第1期実施計画の事業と成果

(平成14～19年度：立ち上げ期)

1 基本理念実現のイメージ

みえメディカルバレー構想では、その目的、基本理念を実現させるために、医療・健康・福祉に関する多様な産業クラスターの形成により、競争力のある医療・健康・福祉産業の創出と集積を図ります。また、医療・健康サービス分野の高度化を進め、新たな市場を拡大していきます。同時に、「厳しい消費者」のニーズを反映させることにより、一層質の高い製品・サービスの提供を促進します。

こうしたスパイラル的な好循環を生み出すことによって、医療・健康・福祉産業の健全な発展を促し、活力ある地域づくりと県民の健康と福祉の向上を図ります。

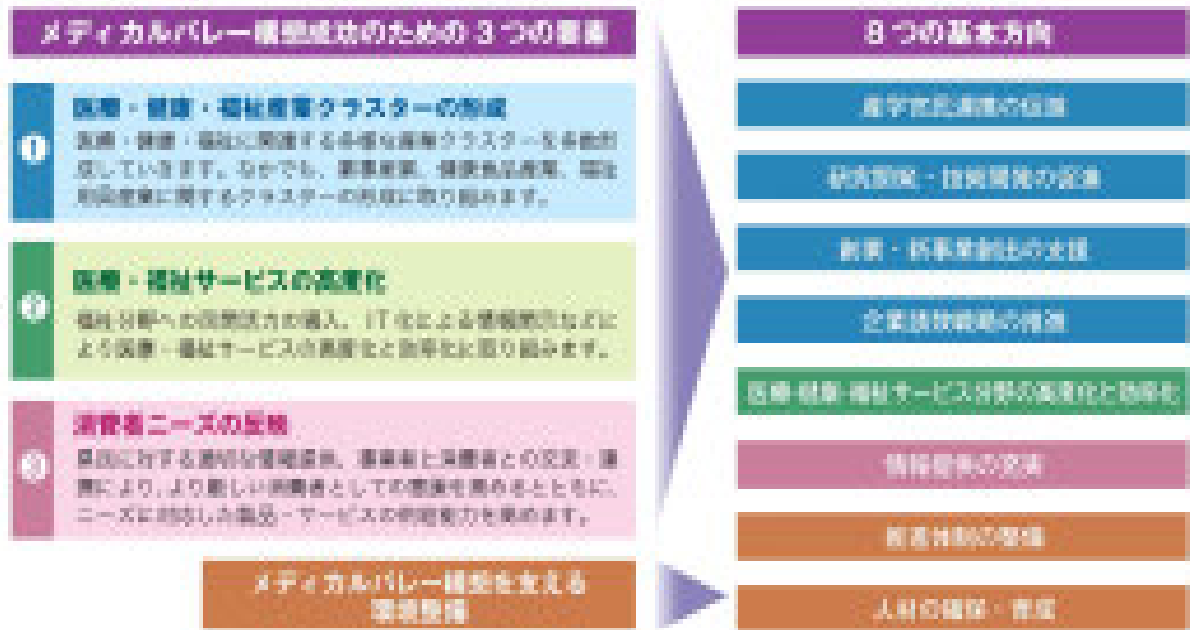


2 3つの要素と8つの基本方向

みえメディカルバレー構想がイメージするスパイラル的な好循環を生み出すためには、「医療・健康・福祉産業クラスターの形成」、「医療・福祉サービスの高度化」及び「厳しい消費者の存在」の3つの要素が必要となると考えます。

また、みえメディカルバレー構想を実現し、成功のための3つの要素の実現に向け8つの基本方向を設定し、具体的な方策を実施していく必要があります。

※次表参照



3 主な実施事業と結果

(1) 産学官民連携の促進

医療・健康・福祉産業に関わる産学官民(企業、大学、病院、福祉施設、県、市町、NPO等)の交流を促進するためフォーラムなど産学官民コミュニティの形成を進めました。また、医学と工学との医工連携や社会福祉・心理学などと工学との生活支援工学連携による研究会設置、産業化に結びつく様々なネットワーク、行政と民間との連携による官民パートナーシップの推進に取り組み、医療・健康・福祉産業創出のソフトインフラの構築を進めました。

医療・健康・福祉産業フォーラム・交流会の開催

平成14年度から毎年、メディカルバレーフォーラムや様々な交流会・セミナー事業を実施し、産・学が広く参加し連携の場が多く提供され、人的ネットワークを構築してきました。

みえメディカル研究会の開催促進

大学等の研究者を中心としたみえメディカル研究会(10分科会程度 会員数600人超)を運営し、企業と大学研究者、企業と企業等の出会いの場を提供することにより、共同研究等につなげてきました。

(2) 研究開発・技術開発の促進

産学官共同研究の促進支援、専門的な研究機能の整備充実、公設試験研究機関の機能強化に取り組み、新技術の開発、既存技術の高度化、新製品の開発など、新たな技術を生み出し、医療・健康・福祉産業の競争力強化に資する研究開発を促進しました。

産学官共同研究に対する研究支援

企業と大学との連携の場や大学等における研究開発・技術開発等の体制が充実し、共同研究が加速的に進展しました。共同研究やコンソーシアム構築のための補助を実施することにより共同研究数が増加してきました。その結果、製品化、特許出願や多くの国等の競争的研究資金の獲得などの成果につながりました。

大学における新規研究機能の整備

三重大学では生命科学研究支援センターや創造開発研究センター、伊賀研究拠点(平成21年3月)が整備されました。

また、四日市看護医療大学の開学(平成19年4月)、鈴鹿医療科学大学薬学部の開設(平成20年4月)など新たな知的拠点が整備されました。

医薬品研究センターの強化・拡充

オープンラボ、技術支援体制を強化し、共同研究や開発支援の充実が図られてきました。また、福祉工学セクションが活動し、福祉分野の技術支援体制が構築されました。

先端的技術開発促進事業

オーダーメイド医療研究など三重大学で展開しています。

(3) 創業・新事業創出の支援

医療・健康・福祉産業への新規参入や事業革新を進める企業に対し総合的な創業支援環境を充実するとともに、治験体制の充実・強化により、安全性、有効性の面での事業者のリスク負担の軽減を図りました。また、コーディネート機能やインキュベーション機能強化による大学のシーズ移転や事業化の促進、福祉用具の研究・販売支援に取り組む等医療・健康・福祉産業の創業・新事業創出に向けた支援を充実しました。

インキュベーション機能やリエゾン機能の充実

三重大学においてキャンパス・インキュベータが設置され、大学発ベンチャー企業も創出されています。また、各大学等でのリエゾン機能が充実されました。

(株)三重ティーエルオーの整備と有効活用

三重県内の高等教育機関等の研究成果や新技術を、産業界に移転するための橋渡しをする目的で株式会社三重ティーエルオーが平成14年2月に設立され、三重大

学を主とする県内高等教育機関の教員をはじめ、民間企業経営者・研究者と人的かつ技術研究領域において広範囲なネットワークが形成され、共同研究・委託研究等の仲介、企業・大学間の技術相談等が充実されました。

治験・ヒューマンスタディ実施の支援

NPO 法人みえ治験医療ネットや機能食品研究分野の体制構築支援をしました。その結果、みえ治験医療ネットワークが構築され、全国トップレベルの治験実績をあげています。なお、医薬品だけでなく機能性食品（特定保健用食品など）の評価を行う体制も整備され、エビデンス（科学的根拠）が確立されたサプリメントが開発されています。

また、三重大学医学部附属病院は厚生労働省の「治験活性化5カ年計画」（平成19年～）の治験拠点病院（30か所）に採択されました。

テクノエイド機能の整備

三重県身体障害者総合福祉センターに「みえテクノエイドセンター」を設置し、福祉用具フォーラム/セミナーや福祉用具アイデアコンクールを通じて、ニーズ提供等に協力する医療・介護・福祉施設及び介護事業者、福祉用具販売事業、製品開発企業、大学等の研究者及び自助具の工房等とのネットワークが強化されました。福祉用具や住宅改修などテクノエイド相談や福祉用具等の試作品や製品の評価・モニタリングシステム（環境）が構築されました。

福祉用具等の販売促進支援

みえビジネスクリニック事業により福祉用具や自助具等の販売支援を実施し、健康・福祉分野で多くの中小企業の製品開発や販路開拓が行われました。

(4) 企業誘致戦略の推進

企業誘致に向けた県の営業体制を強化し、外資系企業を含めた企業誘致の促進に向け、医療・健康・福祉産業を対象とした優遇制度の創設と積極的なPRなどを実施するとともに、県内各地域の自主的な誘致政策を促進しました。

東京・大阪事務所と事業連携

三重県東京事務所及び大阪事務所の企業誘致担当者と連携して誘致活動を実施しました。大阪ベンチャーサロン事業において大阪事務所ベンチャー担当と連携した事業強化を実施しました。

海外ミッション派遣による海外との連携構築

日本貿易振興機構（ジェトロ）のLL事業（ローカル・トゥ・ローカル産業交流事業）等により、ドイツ・バイオコンバレー、スカンバルトのバイオクラスターとの連携関係を構築しました。また、RIT事業（地域間交流支援事業 Regional Industry Tie-Up 事業）により中国との連携関係の構築を進めています。

広域市町村圏、単独市町村等による独自施策の実施

伊賀、伊勢鳥羽志摩、尾鷲、鈴鹿など地域の施策を支援しました。その結果、熊野古道薬草弁当、尾鷲海洋深層水の活用、健康ツーリズムや鈴鹿地域連携組織等の

実績ができました。

(5) 医療・健康・福祉サービス分野の高度化と効率化

競争的・効率的な医療・介護システムの導入に向け、医療情報の電子化や情報開示、第三者による評価などを実施するとともに、ボランティア、NPO の創出及び活動の充実や経営基盤の安定・強化、更には福祉事業者サービスの向上に向けた能力開発などを充実し、医療・健康・福祉サービス分野の高度化と効率化を図りました。

IT の活用による医療の効率化と医療情報の共有化

この分野については、未実施となりましたが、みえ治験医療ネットワークが構築、充実されたことによりその基盤が構築されつつあります。

第三者によるサービス評価の検討

福祉施設については「みえ福祉第三者評価制度」が創設されました。

介護サービス、自助具製作等に関わるボランティア、NPO の活動支援
自助具ボランティアのネットワークが構築されました。

介護保険指定事業者に対する研修活動の拡充

ケアマネージャー等への研修が実施されています。

(6) 情報提供の充実

IT の活用などにより、県民に対する健康づくり情報、薬や福祉用具などの正しい知識に関する情報を提供し、厳しい消費者の創出に向けた環境整備に取り組みました。また、事業者に対し適切かつ迅速で豊富な情報提供を行うため、薬事関係や福祉用具などの総合的情報システムを構築しました。

医療・健康・福祉に関する総合的な情報の提供

4つのホームページ、広報紙、メールマガジンなどから情報発信しておりアクセス数も増加しています。

みえメディカルバレープロジェクト

<http://www.mvp.pref.mie.lg.jp/>

医薬品安全情報提供システム

<http://www.medsafe.pref.mie.lg.jp/>

みえ福祉用具産業支援ネットワーク

<http://www.fynet.pref.mie.lg.jp/>

三重県薬事工業情報提供システム (PIIS)

<http://www.piis.pref.mie.lg.jp/ipp/index.html>

事業者向け情報提供の強化

医薬品等情報提供体制(PIIS等)や福祉用具総合情報ネットを充実しました。

健康と薬草をテーマにした交流の場の検討

平成15年度から19年度に、県内の天然資源の調査を実施し報告書をまとめ、関係事業者や大学研究者に高く評価されました。また、天然資源フォーラムも実施しました。その結果、熊野古道薬草弁当や尾鷲海洋深層水を活用した商品開発や、伊勢鳥羽志摩健康サービス推進協議会が組織されました。

(7) 推進体制の整備

総合行政に基づく庁内横断的推進体制を整備し、ワンストップ相談窓口機能の強化、県内各地の県民局におけるサポート体制の充実などに取り組むとともに、大学、病院、福祉施設、産業支援機関、行政などの関係機関の連携による総合的な支援体制の構築を進めました。また、より一層の安全性確保に向け、許認可サポート体制、審査・監視指導体制、公設試験研究機関などの技術評価体制を強化・充実しました。

庁内横断的連携によるみえメディカルバレー推進組織の設置

健康福祉部にみえメディカルバレー構想を推進するため、メディカルバレー推進グループを設置し各事業の実施と庁内の事業調整、医療・健康・福祉分野のワンストップ行政相談窓口としての機能を充実しました。

みえメディカルバレー推進委員会の設置

みえメディカルバレーを推進する組織としてみえメディカルバレー推進代表者会議(各産・学・官の代表者で運営)、みえメディカルバレー企画推進会議(各産・学・官の主たる実働委員で運営)を設置し、健康福祉部に事務局を設置しました。会議ではみえメディカルバレー構想の効果的な推進を図るため、方向性、進行管理と具体的方策の企画を協議しました。

許認可サポート体制の充実・強化、監視指導・技術評価機能の充実

医薬品研究センターでの技術指導や伊賀における薬事法FD申請の対応を整備しました。

(8) 人材の確保・育成

医療・健康・福祉に関わる専門的知識を備えた人材の確保・育成に取り組むとともに、U・I・Jターンやインターンシップ、学生・社会人教育などにより地域に根ざした人材を確保・育成し、競争力ある事業活動を支援します。また、技術革新や応用技術に関する公設試験研究員の資質を高め、適切な技術支援が実施できる体制を強化しました。

薬系人材などの専門技術者確保支援と薬科系大学の誘致などの検討

県内企業、薬局、病院等で必要とする薬系技術者確保のため、県薬剤師会が運営する無料職業紹介所で総合的な斡旋を行いました。また、就職ガイダンスの開催、インターンシップ受入実施、薬系大学での就職説明会への参加、県外薬系大学を訪問し三重県出身学生への情報提供を実施しました。

また、鈴鹿医療科学大学に薬学部が設置されました。(平成20年4月)

県内大学における社会人教育プログラムの充実

三重大学医学系大学院にバイオメディカル創業プログラムが設置され、地域社会が必要とする高度専門人材を育成する体制が確立されました。

県内関係企業でのインターンシップ等の推進

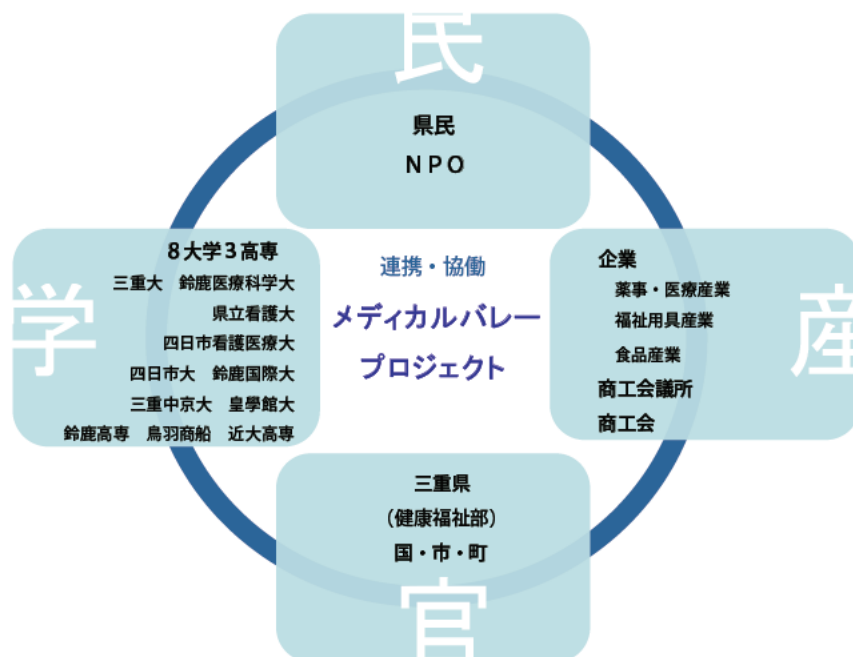
三重県薬事工業会と連携し、県内薬事関係企業でのインターンシップ受入の体制が整備されました。

Ⅱ 第2期実施計画の事業と成果

(平成20～22年度：基盤整備期)

1 第1期実施計画で構築された産学官民連携

平成14年度から19年度にみえメディカルバレー構想第1期実施計画で事業展開してきた結果、みえメディカルバレーフォーラム、各種セミナーの開催、みえメディカル研究会等により、県内の産学官民連携体制が構築されました。



2 3年間にめざす姿と基本方向の設定

平成14年に策定されたメディカルバレー構想の基本理念に基づき、引き続き医療・健康・福祉産業の振興に取り組みました。また、3年間にめざす姿をイメージし、事業展開しました。

3年間にめざす姿

産学官民が連携しながら、それぞれが自立的な取組を展開するパートナーシップを維持し、そこから次々にイノベーションが生み出され、医療・健康・福祉産業が活性化しています。

3年間にめざす姿を実現するため、第1期実施計画で構築した産学官民連携、人的ネットワークを活用し、新たに次の5つの方向性を基に事業を展開しています。

(1) 産学官民によるネットワークの充実・拡大

第1期実施計画で構築した産学官民連携体制を更に充実・拡大し、鈴鹿医療科学大学薬学部や三重大学産学官連携伊賀研究拠点を核とした新たな連携に向けた取組の実施、8大学・3高専のそれぞれの強みを生かした取組、市町や地域の関係団体や県民との連携を強化していきます。

(2) メディカル分野の人材の確保・育成

みえメディカルバレーが発展し、各主体が自立して活動していくためには、高度な知識とモチベーションの高い人材が必要です。フォーラム、研究会、インターンシップ制度、大学における社会人教育プログラムなどを活用し、県内に定着する人材の確保・育成をめざします。

(3) 統合医療・予防医学を推進するための体制づくり

伝統薬や本草学者を輩出した歴史的・文化的背景を持っている三重県を統合医療の先進地として確立させるとともに、予防医学を視野に入れた統合医療を活用した産業支援に取り組んでいきます。特に他府県より先駆的に構築した治験医療ネットワークを活用し、エビデンス(科学的根拠)の確立した製品づくりを進め、治験医療ネットワークのビジネスモデル化を確立させ、みえメディカルバレーの中心的組織に育てます。

(4) 技術力向上・製品開発の支援

みえメディカルバレーの主要パートナーである県内中小企業の技術力、製品開発力を高めるため、産学官連携による支援システムを充実していきます。また研究資金確保のための企業向け補助金や研究会、セミナー、サポーター等による製造・品質管理の技術支援を実施していきます。更に、若手研究者や国等の大型プロジェクトの研究資金の獲得をめざす研究者のために委託研究を提供していきます。

(5) 推進体制の充実

構想を推進するために設置している推進代表者会議、企画推進会議などの組織の充実・強化を図ります。内部評価の継続とともに新たな外部評価システムの導入を検討し、事業のPDSサイクルを確立していきます。

3 主な実施事業と結果

(1) 産学官民によるネットワークの充実・拡大

メディカルバレーフォーラムの実施

これまで構築してきた産学官民のネットワークを更に充実・拡大していくため、医療・健康・福祉産業に関わる県内外の産学官民が一堂に会し、講演などを通じて情報の共有を図るとともに、交流会を通じて人的なネットワークを広げました。

みえメディカル研究会の開催

大学や公設試験研究機関を中心とした医療・健康・福祉産業分野での産学官民参加型の「みえメディカル研究会」として、産学官民が連携することにより新たな研究開発・技術開発が促進されています。会員数延べ600名超が活発に活動しています。

メディカルバレー総合情報発信基地の充実

みえメディカルバレープロジェクトの戦略的な推進に向け、県内外の医療・健康・福祉関連事業者、大学、行政関係者ならびに県民等に、みえメディカルバレープロジェクトを広く周知し、産学官民が一体となった取り組みを推進するため、様々な方法で情報を収集・整理し、戦略的な発信・活用を行いました。その結果、4つのホームページへのアクセス数も年々増加し、知名度が着実に上がっています。

(2) メディカル分野の人材の確保・育成

メディカルバレー創造的人材育成の推進

県内企業、薬局、病院等で必要とする薬系技術者確保のため、県薬剤師会が運営する無料職業紹介所で総合的な斡旋を行うとともに、県外薬系大学を訪問し、三重県出身学生への情報提供などを進めました。その結果、4年制から6年制に移行したことに伴い、各大学から情報収集することができました。インターンシップ受入についても大学・学生ともに喜ばれました。

また、みえメディカルバレープロジェクトを支える人材を育成するため、県内高等教育機関と連携して実践教育の推進に努めました。

(3) 統合医療・予防医学を推進するための体制づくり

みえ治験医療ネットワーク構築の推進

三重大学を中心とした治験ネットワークを他府県に先駆けて構築、推進してきましたが、更にこのネットワークを着実・充実するため、みえ治験医療ネットワーク推進会議の開催、臨床研究コーディネータの育成・確保やシンポジウム・セミナーなどを開催し病院・診療所、医療関係者及び県民への情報提供および普及啓発を実施しました。

また、このネットワークを通じて、県内研究開発を促進し、よりエビデンスの高い医療の提供や製品づくりを支援しました。その結果、みえ治験医療ネットワークでは、123 医療機関が加入し中央治験審査委員会の実施のための体制作りも推進しています。

「美し国・みえ」から生まれる予防医学を活用した産業の支援

今後進展が予想される予防医学を広く県民に持続的に啓発していくため、「美し国おこし・三重」と連携し、予防医学に関連する住民グループの発掘、医療関係者も加わったネットワークを構築しました。更に、三重県型予防医学に関連したビジネスモデル化を行い、県内の医療・健康・福祉産業を活性化と県民の健康増進に寄与しました。

メディカルバレーふるさと雇用の再生（平成 21 年度から 3 カ年事業）

ふるさと雇用再生事業として、地域の健康増進に係る産業における、民間企業などの新たな事業展開の支援を行っています。医療・健康・福祉産業における事業拡大、新規事業への取組に対し支援することで、県内の関連産業の振興を図るとともに、新たな雇用を創出しました。（事業は県内民間企業等に委託し、雇用を創出しています。）

治験啓発・活性化事業

県民に広く治験への理解と協力を図る啓発事業を実施しました。また、新規治験受託医療機関の発掘を実施し加入促進が実現しています。

健康ツーリズム企画開発事業

県内（特に伊勢志摩、東紀州）の新たな観光価値として、健康ツーリズム商品である「ウェルネスの旅」の啓発・支援・企画・主催・調査・集客などの業務を実施しました。

三重伝統薬ブランド商品開発事業

三重県の伝統薬、薬草を利用した商品のブランド化を図るため、マーケティングリサーチや商品開発、販路開拓等を実施し、伝統薬産業を振興しました。その結果、伊勢において古来から薬草を活用した萬金丹が復刻できました。

統合医療推進事業

第 2 期実施計画の柱となる「統合医療」に関する医療関係者向けのワークショ

ップの開催、統合医療研究会及び産業ネットワークのコーディネートを実施し統合医療推進の基盤を構築しました。その結果、県民だけでなく事業者、研究者、医療関係者を含めた幅広いネットワークが形成できました。

医療機器等開発促進拠点化事業

医療現場等に潜在する様々な開発ニーズとそれらに対応した工学的な技術シーズとの一体となった研究開発を進めるため、研究開発拠点として開発ニーズの調査、医療機器等の研究開発、製品の実用化などの基礎ができつつあります。

(4) 技術力向上・製品開発の支援

福祉ビジネス販路開拓の支援

みえメディカルバレー健康・福祉ビジネスサポート事業（KBS）

みえメディカルバレープロジェクト開始から健康・福祉分野の製品・サービスの販路開拓支援を行ってきましたが、福祉分野のものづくり・サービス産業が伸びていないのが現状であり、福祉分野の産業振興を図るため、福祉用具ものづくり研究会やみえテクノエイドセンターと連携して、製品開発から販路開拓までを支援する事業を展開しました。その結果、事業者の販売能力を向上させるため、効果的な展示会への出展を支援しており効果をあげています。

福祉用具製品化支援事業

三重県身体障害者総合福祉センターに設置する「みえテクノエイドセンター」において、福祉用具フォーラムやセミナー等を実施することで福祉用具の普及・啓発、自助具の製作を行う中から、使い手と作り手が参加する福祉用具や自助具に関するネットワークを構築し、ニーズ提供やモニタリングなど製品化支援を行って福祉産業の創出を図りました。その結果、福祉用具等のニーズがテクノエイド相談やアイデアコンテストで収集・集積しつつあります。

バイオ産業の創出

本県は、薬用植物等植物資源、海洋生物資源、海洋深層水などの豊かな天然資源があり、その調査結果を活かした事業展開を行い地域の活性化を進めるとともに本県のポテンシャルを高め、バイオベンチャー等の起業化の促進をめざしました。

県内各地域と会議やセミナーを実施し、天然資源を活用した医療・健康・福祉分野への新たな産業振興に取り組んでいる、または今後取り組もうとしている地域とのつながりができました。

また、事業者の販売能力を向上させるため、効果的な展示会への出展を支援しており効果をあげています。

医療・健康・福祉産業分野海外地域間交流の促進

三重県薬事工業会と協働し、産学官が連携して今後の発展が期待される中国との企業間、大学間による技術連携や共同研究、市場開拓などを進めました。ミッ

ション派遣は、三重大学と瀋陽薬科大学との大学間協力協定の締結につながりました。

また、遼寧省遼寧省食品薬品监督管理局から県内企業、大学等との交流を深めるため、来県のための受入要請があるなど、今後の連携・交流につながっています。

メディカルサポーターの活用・充実

企業が確保できていない人材(薬事関連産業であれば、薬事に関する相談、GMP 運用・バリデーション実施に精通し、薬事法等をサポート、アドバイスできる人材)を、「メディカルバレー推進サポーター」として委嘱し、医療・健康・福祉関連企業に派遣して、サポート・アドバイス等を実施しました。メディカルバレー推進サポーターを活用することにより、県内薬事関係事業者の薬事関係法令にかかる支援、技術的支援を受けレベルアップが図れています。

メディカルバレー共同研究の支援

医療・健康・福祉分野の産業振興を進めるため、産学官連携による企業を対象とした共同研究補助や大学等の研究者を対象とした委託研究を実施しました。共同研究補助委託により、商品化・特許取得等の成果がでています。また、国等の競争的資金確保への足がかりや、企業・研究者への共同研究が拡大するなど利用者貢献しています。

(5) 推進体制の充実

みえメディカルバレー推進体制の整備

事業の進捗管理と具体的方策の企画、施策実施の成果評価、補助事業審査等を実施する機関を設置することにより、みえメディカルバレー推進事業の効果的な推進を図りました。また、事業の方向性、具体的方策の妥当性を的確に評価し効果的な事業の推進を図るため、外部審査員による外部評価システム導入を試行しました。メディカルバレー推進事業の効果的な推進を目的とし、活発な意見交換の実施、それぞれの情報交換・情報共有の場及びネットワークの構築が可能となりました。

メディカルバレー成果評価アンケート調査 緊急雇用創出事業

平成 19 年度でメディカルバレー構想の第 1 期実施計画が終了し、今までの事業成果に対する評価及び問題点等をアンケート調査により検証し、メディカルバレー事業のなかでも認知度の低い事業があるなど強み弱みを検証することができました。

これまでのみえメディカルバレーの成果

みえメディカルバレー構想第1期、第2期実施計画において得られた成果は多く、特に産学官民連携のネットワークが構築されたことはめざましい成果です。みえメディカルバレープロジェクトが開始されるまでは、県と大学、企業との連携は個別案件の範疇でした。みえメディカルバレーによる産学官民連携の協力体制は、全国的にみてもトップクラスであり、この基盤を活用して事業展開してきました。

以下に、みえメディカルバレープロジェクトから生み出された主な成果を紹介します。

新たな知的拠点の整備

四日市看護医療大学の開学（平成19年4月）、鈴鹿医療科学大学薬学部の設置（平成20年4月）や三重大学産学官連携伊賀研究拠点の設置（平成21年3月）がされるなど、新たな知的拠点が整備され、医療・健康・福祉分野の高度な人材確保・育成、産学共同研究やイノベーションを生み出す基盤が整備されました。

みえ治験医療ネットワークの構築

平成15年度に産学官で構築した「みえ治験医療ネットワーク」は、現在県内医療機関123施設（平成23年4月現在）が参画しており、鳥インフルエンザワクチンの治験実績もあり、地域での取り組み成功例として厚生労働省も認知しています。特に、県域全体で大規模な治験を受け入れる体制づくりに成功している事例は全国的に数少なく、注目を集めています。

また、三重大学医学部附属病院は厚生労働省の「治験活性化5か年計画」（平成19年度～）の治験拠点病院（平成19年度に全国で30か所が指定され、平成22年度中間見直しにより、現在20か所となっている。）に採択されています。

- ・ 県内の病院・診療所参加数：123施設
- ・ 平成15年度から22年度の8年間の累計で165件

三重県内の産学連携による共同研究の増加

みえメディカルバレープロジェクトが始まり、県内の大学・高等専門学校と企業との研究委受託受入システムが整備され、共同研究が活発に実施されるようになりました。特に、三重大学では全国トップクラスの実施状況であり、中小企業が大学へ気軽に連携を申し込めるようになり、様々な製品開発につながっています。

その結果、リポソーム自動製造装置、東紀州や伊勢志摩の天然資源を活用したハンドクリーム、真珠貝の成分を活用した化粧品、アオサを原料とした健康機能食品等の製品が開発されました。

健康ツーリズムの創出

産学官民がみえメディカルバレープロジェクトを通じた交流の場での出会いをきっかけに、特に伊勢志摩や尾鷲地域を中心に、健康ツアーなど新しい地域産業が創出されています。

- ・ハイテク温泉健康塾：三重大学と鳥羽市が主催する健康状態の測定やウォーキング、講演、温泉入浴、健康な食事などを通じて健康になるための足掛りとなるツアー。
- ・グルメディカルツアー：三重大学と志摩観光ホテルが、肝臓病の食事療法の普及を目的とした、肝臓専門医によるセミナーや肝臓病食（鉄制限食）を取り入れたツアー。
- ・ウエルネスの旅：伊勢・鳥羽・志摩の資源を活用し、生活習慣病（糖尿病等）が気になる人を対象に、ウォーキングや食事に配慮した新しいツアー。

尾鷲海洋深層水の活用

平成14年の試験的深層水の取水に際し、県と三重大学が中心となり、深層水の利活用に関わる基礎的研究が開始され、平成18年の本格取水を機にみえメディカル研究会として「みえ尾鷲海洋深層水利用促進研究会」を設置し、尾鷲市と三重大学を中心に様々な連携により海洋深層水を活用した商品が開発されています。

天然資源を活用した食品等の開発

県内の薬草や野菜、海藻等を使い、「熊野古道薬草弁当」（紀北調理師会）や「医食同源弁当」（一般社団法人医食同源みえ）、「地元天然資源を活用した医食同源料理～伊勢食道」（伊勢調理師協会）、黒ニンニクを使ったこんにゃく等が開発されています。

バイオクラスターランキングによる評価

日経 BP 社が実施した全国バイオクラスターランキングで、平成 16 年度 5 位、平成 17 年度 6 位、平成 18 年度 4 位と高い評価を得ました（バイオクラスターランキングは平成 19 年度以降実施されていません）。これは、特にネットワークによる産学官民連携が高く評価されています。

その他の成果

バイオベンチャーの創出 32 企業 （平成 14 年 4 月から 22 年度末までの累計）
（出典：三重県健康福祉部薬務食品室調べ）

医薬品製剤製品出荷額：全国 14 位（平成 21 年）

医薬品製剤製品伸び率：2.3 倍 全国トップ（平成 14 年から 21 年の 8 年間）
（出典：三重県統計室 三重の工業）

三重県に立地した薬事等関係事業者数及び異業種から薬事関係への（第2創業）
数：60件（平成14年度から22年度の9年間の累計）

（出典：三重県健康福祉部薬務食品室調べ）

共同研究による製品化・特許出願：85件（平成14年度から22年度の9年間の累計）

（出典：三重県健康福祉部薬務食品室調べ）

健康・福祉分野の製品の販路開拓に成功した事業者数：97事業者

（平成14年度から22年度の9年間の累計）

（出典：三重県健康福祉部薬務食品室調べ）

海外地域との交流

メディカルバレーとバイオコンバレー（ドイツ）との協力協定締結（平成16年）

三重大学医学部とロストック大学医学部との（ドイツ）協力協定締結（平成16年）

三重大学と瀋陽薬科大学（中国・遼寧省）間協力協定締結（平成22年）

みえメディカルバレー構想の年表

平成14年3月まで

平成7年～9年	薬事工業関係企業 20 社と知事との懇談会（後の「さわやかトーク」）を開催
平成8年4月	GMP 研究会設置、薬事企業向け高度化研修会などの開始
平成8年4月～12月	県外薬事指導所のベンチマーキング調査
平成11年3月	薬事工業技術基盤整備事業基礎調査（薬事工業振興計画）
平成12年4月	薬事工業技術サポートネットワーク事業開始
平成12年12月	薬事関連工業の安全対策と振興等に向けた公設試の機能強化、連携のあり方検討調査（薬事工業研究開発アクションプログラム）
平成13年3月	薬事関連工業の安全対策と振興等に向けたアクションプログラム検討調査
平成13年3月	三重県議会 新産業創造特別委員会委員長報告（みえメディカルバレー推進を提言）
平成13年4月	科学技術振興センター工業研究部へ医薬品研究センター設置
平成14年2月	(株)三重 TLO が三重大学内で創業
平成14年2月	みえメディカルバレー構想策定

平成14年度

平成14年4月	県健康福祉部にメディカルバレー推進グループの設置
平成14年4月	みえメディカルバレー推進事業の開始
平成14年7月	みえメディカル研究会発足
平成14年7月	メディカルフォーラム in 伊賀を開催
平成14年8月	みえメディカルバレー企画推進委員会設置
平成14年9月	メディカルバレーフォーラム 2002 を開催
平成14年10月	みえテクノエイドセンターを三重県身体障害者総合福祉センターに設置
平成14年11月	みえメディカルバレー代表者会議設置
平成14年11月	医療・健康・福祉分野欧州派遣調査団を派遣（スウェーデン、デンマーク、ドイツ、イギリス）
平成14年12月	三重大学と尾鷲市が相互友好協力協定を締結（H23.4 現在 10市2町）
平成15年3月	上野市（現伊賀市）、名張市、三重大学などにより伊賀地域産業ステージ活性化計画策定

平成15年度

平成15年4月	三重大学生命科学研究支援センター設置
平成15年4月	みえ治験医療ネットワークの構築決定、みえ治験医療ネットワーク推進委員会・同ワーキンググループの設置
平成15年6月	みえメディカルバレー構想新機軸展開事業開始
平成15年6月	治験医療ネットワーク構築支援、天然資源活用型バイオ産業創出、液晶技術応用促進事業の3リーディングプロジェクト開始
平成15年6月	みえメディカル研究会総会を開催
平成15年9月	メディカルバレーフォーラム2003を開催
平成15年9月	みえメディカルバレー国際交流推進連絡会議設置
平成15年10月	ドイツ・バイオメディカル産業ミッション団(ドイツ(ベルリン、メクレンブルグ・フォアポメルン州、ブランデンブルグ州)(ジェトロローカル・トゥ・ローカル産業交流事業))を派遣 海外バイオクラスター(ドイツピオコンバレー*)との交流開始 *ピオコンバレー:旧東ドイツ地域に位置するメクレンブルグ・フォアポメルン州のピオコンバレーは、州政府や企業が出資したピオコンバレー社が中心となり、ロストック大学やグレイフスバルトバルド大学との連携により、医療・農業・海洋の3つのバイオ産業クラスター形成を目指している。2002年には、スカンジナビア、バルト諸国、ドイツ等の12カ国が参加するバイオクラスターネットワークにも参画している。
平成15年11月	津市サイエンスシティ(工業団地)が複合型産業集積特区認定
平成15年11月	NPO法人みえ治験医療ネット設立
平成16年1月	みえ新産業創造ファンド設立
平成16年3月	三重大学キャンパスインキュベータ竣工
平成16年3月	鈴鹿市がNTT跡地利用転換計画(健康・福祉サイエンスパーク)策定

平成16年度

平成16年4月	三重大学が国立大学法人化
平成16年4月	三重大学創造開発研究センター設置・知財総括室等設置
平成16年4月	バレー構想関連企業等立地促進補助金制度の創設
平成16年4月	みえ治験医療ネットワーク本格稼働
平成16年4月	伊勢鳥羽志摩健康サービス推進協議会設立
平成16年5月	関西バイオ推進会議(大阪商工会議所、関西経済連合会等)へ参画
平成16年5月	ドイツ・ピオコンバレー訪問団(メクレンブルグ・フォアポメルン州の経済省大臣、ピオコンバレー会長ほか)来県

平成 16 年 5 月	メディカルバレーとバイオコンバレーとの協力協定締結（ドイツ）
平成 16 年 6 月	みえメディカルバレー創成計画・同創成特区が地域再生計画・地域構造改革特区に認定
平成 16 年 6 月	みえメディカル研究会総会を開催
平成 16 年 7 月	紀北地域振興計画策定事業開始（経済産業省電源地域振興指導事業）
平成 16 年 7 月	都市エリア産学官連携促進事業（伊勢湾岸エリア）開始
平成 16 年 9 月	メディカルバレーフォーラム 2004 を開催
平成 16 年 10 月～ 11 月	医療・健康・福祉産業欧州ミッション団を派遣（ドイツ（ベルリン、メクレンブルグ・フォアポメル州）、スウェーデン、デンマーク） スキャンバルトバイオリージョン（バイオコンバレー、メディコンバレー* など）との連携へ発展 *メディコンバレー：デンマークとスウェーデン国境にまたがるオーレンス地域の医療・バイオ・食品・IT 等の企業、研究所、大学等で構成される産業クラスター
平成 16 年 10 月	三重大学医学部とロストック大学医学部との研究協力協定締結（ドイツ）
平成 16 年 10 月	三重 TLO と iPAL（ドイツ・ベルリン TLO）との業務提携覚書締結
平成 16 年 10 月	三重 TLO と PVA - MV AG（ドイツ・メクレンブルグ・フォアポメルン州 TLO）との業務提携覚書締結
平成 16 年 12 月	日経バイオビジネス誌の全国バイオクラスターランキングで 5 位
平成 17 年 3 月	日独再生医療セミナーを三重大で開催
平成 17 年 3 月	平成 16 年度医薬品生産額がみえメディカルバレープロジェクト事業開始前の約 1.5 倍（全国順位 15 位）
平成 17 年 3 月	三重大学の平成 16 年度共同研究数がみえメディカルバレープロジェクト事業開始前の 2 倍、178 件（国内全大学中 18 位、中小企業割合は 2 位）

平成 17 年度

平成 17 年 4 月	みえメディカルバレー知的財産活用促進事業開始
平成 17 年 5 月	GNI 投資環境視察ツアー（米国、欧州、中国等企業など）
平成 17 年 6 月	津市サイエンスシティが複合型産業集積特区の変更認定
平成 17 年 7 月	伊勢鳥羽志摩交流フロントコンソーシアム* 経済産業省サービス産業創出支援事業（基本計画策定事業）の採択 *伊勢鳥羽志摩健康サービス推進協議会の下部組織
平成 17 年 8 月	メディカルバレーフォーラム 2005 を開催
平成 17 年 8 月	東海バイオものづくり創成プロジェクト（中部経済産業局・NPO バイオものづくり中部）との協働体制確立

平成 17 年 9 月	バイオジャパン 2005 への共同出展・ジョイントセミナー開催（バイオコンバレー、三重大学、三重 TLO、津市など）
平成 17 年 9 月	第 1 回日独再生医療カンファレンスを三重大学で開催
平成 17 年 9 月	ドイツ・バイオコンバレー訪問団来県
平成 17 年 9 月	日経バイオビジネス誌の全国バイオクラスターランキングで 6 位
平成 17 年 10 月	中国上海 China Pharm への出展と中国上海・南京訪問団の派遣
平成 17 年 10 月	紀北調理師会による「熊野古道薬草弁当」の商品化
平成 17 年 11 月	メディコンバレー（スウェーデン、デンマーク）アカデミーの代表者が来県
平成 17 年 11 月	医療・健康・福祉産業欧州ミッション団を派遣（ドイツ（ベルリン、メクレンブルグ・フォアポメルン州）スウェーデン、デンマーク）
平成 17 年 11 月	三重 TLO とルンド TLO Forskarpatent i Syd（スウェーデン）との業務提携覚書締結
平成 17 年 12 月	三重大学医学部附属病院にオーダーメイド医療部設置
平成 18 年 2 月	GNI セントレア企業招聘事業（中国、ドイツ等企業）
平成 18 年 2 月	三重大学臨床研究開発センター設置
平成 18 年 3 月	紀北地域振興計画策定調査終了（経済産業省電源地域振興指導事業）
平成 18 年 3 月	三重県内のバイオベンチャー企業 20 社に
平成 18 年 3 月	ゆめぼりす伊賀（薬事産業の集積工業団地）の 95.9%が分譲完了

平成 18 年度

平成 18 年 4 月	メディカルバレー創造的人材育成事業の開始
平成 18 年 4 月	BIO2006（米国 シカゴ）へ三重大学、三重 TLO、ベンチャー企業などとともに共同出展
平成 18 年 6 月	みえメディカル研究会総会を開催
平成 18 年 7 月	伊勢鳥羽志摩交流フロントコンソーシアム 経済産業省サービス産業創出支援事業（コンソーシアム機能強化事業）の採択
平成 18 年 8 月～ 平成 19 年 3 月	バイオコンバレー企業動向調査（ジェットロに委託）
平成 18 年 9 月	メディカルバレーフォーラム 2006 を開催
平成 18 年 9 月	バイオジャパン 2006 への共同出展（バイオコンバレー、三重大学、三重 TLO、津市など）
平成 18 年 10 月	日経バイオビジネス誌の 2006 年度全国バイオクラスターランキングで 4 位
平成 18 年 11 月	中国上海・南京にミッション団を派遣
平成 18 年 11 月	三重県健康福祉部薬務食品室と中国上海市外国投資促進中心投資促

	進部との連絡窓口設置確認書の締結
平成 18 年 11 月	三重県健康福祉部薬務食品室と中国江蘇省食品薬品监督管理局との連絡窓口設置確認書の締結
平成 18 年 11 月	三重県健康福祉部薬務食品室と中国南京市招務服務中心との連絡窓口設置確認書の締結
平成 18 年 11 月	みえ福祉用具フォーラム 2006 を開催
平成 19 年 2 月	GNI セントレア企業招聘事業（中国企業）
平成 19 年 3 月	第 2 回日独再生医療カンファレンスをロストック大学で開催

平成 19 年度

平成 19 年 4 月	メディカルバレー知的拠点支援事業開始
平成 19 年 4 月	健康福祉ビジネスサポート事業を開始
平成 19 年 4 月	四日市看護医療大学開学
平成 19 年 4 月	ジェットロ RIT 事業採択決定
平成 19 年 4 月	三重医療・健康・福祉産業クラスター事業開始
平成 19 年 5 月	BIO2007 ポストンへ参加（ポスター展示）
平成 19 年 5 月	みえメディカルバレー構想見直し検討開始
平成 19 年 6 月	三重大学と鈴鹿医療科学大学が包括的連携に関する協定を締結
平成 19 年 6 月	全国産学官連携会議（京都）に三重大学、津市と共同出展
平成 19 年 6 月	みえメディカル研究会総会を開催
平成 19 年 6 月	国際バイオエキスポ（東京）に NPO バイオものづくり中部と共同出展
平成 19 年 7 月～ 平成 20 年 3 月	バイオコンバレー企業動向調査（ジェットロに委託）
平成 19 年 8 月	薬学生インターンシップ受入（1 名）
平成 19 年 8 月	薬学生就職ガイダンスを薬剤師会、薬事工業会と共催
平成 19 年 9 月	メディカルバレーフォーラム 2007 を開催
平成 19 年 9 月	バイオジャパン 2007 への共同出展（三重大学、津市、三重 TLO、バイオコンバレー）
平成 19 年 10 月	全国バイオクラスター交流会に参加（大阪）
平成 19 年 10 月	中国南京・瀋陽地域にミッション団派遣
平成 19 年 10 月	三重県健康福祉部薬務食品室と中国南京市食品薬品监督管理局と連絡窓口設置確認書の覚書締結
平成 19 年 10 月	三重県健康福祉部薬務食品室と中国瀋陽市食品薬品监督管理局との連絡窓口設置確認書の締結
平成 19 年 10 月	三重県医療・健康・福祉産業ミッション団と中国瀋陽市瀋陽薬学会と

	の連絡窓口設置確認書の締結
平成 19 年 11 月	三重大学発産学官連携セミナー in 伊賀を開催
平成 19 年 11 月	みえメディカル研究会統合医療研究会を設置
平成 19 年 12 月 平成 20 年 1 月	東海地区薬系大学企業説明会に三重県薬剤師会、三重県薬事工業会と 共同出展
平成 19 年 12 月	みえ福祉用具フォーラム 2007 を開催
平成 20 年 1 月	GNI・RIT 海外医療・健康・福祉関連企業招へい事業
平成 20 年 2 月	三重大学発産学官連携セミナー in 伊賀を開催
平成 20 年 3 月	伊勢市産業支援センター開所

平成 20 年度

平成 20 年 4 月	鈴鹿医療科学大学に薬学部設置
平成 20 年 5 月	全国バイオクラスター交流会に参加（山形県鶴岡市）
平成 20 年 6 月	北米先進地視察（カナダ・コルテス島、BIO2008 サンディエゴ、アリゾ ナ大学など）
平成 20 年 6 月～ 平成 21 年 3 月	バイオコンバレー企業動向調査（ジェットロに委託）
平成 20 年 6 月	全国産学官連携会議（京都）に三重大学、津市と共同出展
平成 20 年 6 月	みえメディカル研究会総会を開催
平成 20 年 7 月	天然資源活用地域連携会議を開催
平成 20 年 7 月	国際バイオエキスポに三重大学と共同出展
平成 20 年 7 月	三重大学発産学官連携セミナー in 伊賀を開催
平成 20 年 8 月	メディカルバレーフォーラム 2008 を開催
平成 20 年 8 月	薬学生インターンシップ受入（2 名）
平成 20 年 9 月	産学官のメンバーで富山県、北海道の取組をベンチマーキング
平成 20 年 10 月	中国瀋陽・天津地域にミッション団派遣
平成 20 年 10 月	バイオジャパン 2008 への共同出展（三重大学、津市、バイオコンバレー、 NPO バイオものづくり中部）
平成 20 年 11 月	みえメディカルバレー構想第 2 期実施計画策定
平成 20 年 12 月	みえ福祉用具フォーラム 2008 を開催
平成 21 年 1 月	統合医療ワーキンググループ活動開始
平成 21 年 1 月	三重大学発産学官連携セミナー in 伊賀を開催
平成 21 年 2 月	全国バイオクラスター交流会に参加（神戸市）
平成 21 年 2 月	中国（瀋陽）医療・健康・福祉関連企業・有識者招へい事業
平成 21 年 2 月・3 月	天然資源活用セミナー開催（熊野市、伊勢市）

平成 21 年度

平成 21 年 4 月	メディカルバレーふるさと雇用再生特別基金事業を開始
平成 21 年 4 月	三重大学大学院地域イノベーション学研究科設置
平成 21 年 4 月	産学官連携地域産業創造センター「ゆめテクノ伊賀」(三重大学産学官伊賀研究拠点)開設
平成 21 年 5 月	統合医療分野の世界的権威アリゾナ大学アンドルー・ワイル博士を三重に招へい(意見交換、県内施設見学)
平成 21 年 6 月	全国産学官連携会議(京都)に三重大学、津市と共同出展
平成 21 年 6 月	みえメディカル研究会総会を開催
平成 21 年 7 月	国際バイオエキスポに三重大学と共同出展
平成 21 年 7 月	三重大学産学官連携セミナー in 伊賀を開催
平成 21 年 8 月	産学官のメンバーで沖縄県の取組をベンチマーキング
平成 21 年 9 月	緊急雇用創出事業により、アンケート調査実施
平成 21 年 9 月	市町、商工会・商工会議所対象の天然資源活用意向調査を実施
平成 21 年 9 月	三重大学先端テクノロジー研究会を伊賀研究拠点で開催
平成 21 年 10 月	ウェルネスの旅を開催
平成 21 年 10 月	バイオジャパン 2009 への共同出展(三重大学、津市、バイオコンバレー、NPO バイオものづくり中部)
平成 21 年 10 月	中国瀋陽・本溪地域にミッション団派遣
平成 21 年 11 月	医食同源フォーラムを多気町で開催
平成 21 年 11 月	東海薬剤師学会大会でポスターセッション出展(岐阜市)
平成 21 年 12 月	みえ福祉用具フォーラム 2009 を開催
平成 22 年 1 月	三重大学産学官連携セミナー in 伊賀を開催
平成 22 年 2 月	全国バイオクラスター交流会に参加(沖縄県那覇市)
平成 22 年 2 月	メディカルバレーフォーラム 2010 を開催(基調講演:茂木健一郎氏)
平成 22 年 2 月	三重大学と瀋陽薬科大学との学術協力・交流に関する一般協定書締結
平成 22 年 2 月	三重大学と瀋陽薬科大学との学生交流に関する一般協定書締結
平成 22 年 3 月	ウェルネスの旅を開催

平成 22 年度

平成 22 年 5 月	統合医療分野の世界的権威アリゾナ大学アンドルー・ワイル博士を三重に招へい(意見交換、県内施設見学)
平成 22 年 6 月	第 9 回産学官連携推進会議 - 科学・技術フェスタ in 京都 - に三重大学、津市と共同出展
平成 22 年 6 月	みえメディカル研究会総会を開催

平成 22 年 6 月	中国遼寧省食品薬品监督管理局技術審査センター職員 3 名来県 (意見交換、県内視察)
平成 22 年 6 月	地域治験ネットワーク連絡会議を三重県で開催(参加地域: 静岡、大阪、福岡、三重)
平成 22 年 6 月	国際バイオエキスポに三重大学と共同出展
平成 22 年 7 月	三重大学医学部附属病院に統合医療鍼灸外来の開設
平成 22 年 7 月	中国駐名古屋総領事館総領事との意見交換会
平成 22 年 7 月	三重大学産学官連携セミナー in 伊賀を開催
平成 22 年 8 月	薬科大学学生インターンシップ受入(5名)
平成 22 年 9 月	メディカルバレーフォーラムを開催
平成 22 年 9 月	バイोजパン 2010 に三重大学、津市、医食同源みえと共同出展
平成 22 年 10 月	中国瀋陽・本溪地域にミッション団派遣
平成 22 年 10 月	こころとからだの健康ツーリズム・フォーラムを多気町で開催
平成 22 年 11 月	医食同源フォーラムを多気町で開催
平成 22 年 12 月	みえ福祉用具フォーラム 2010 を開催
平成 22 年 12 月	ウェルネスの旅を開催
平成 23 年 1 月	三重大学産学官連携セミナー in 伊賀を開催
平成 23 年 2 月	全国バイオクラスター交流会を津市で開催
平成 23 年 2 月	伊勢調理師協会等による「地元天然資源を活用した医食同源料理～伊勢食道～」の開発
平成 23 年 2 月	関西バイオビジネスマッチング 2011 に県内ベンチャー企業が出展
平成 23 年 3 月	メディカルフォーラム in 伊賀の開催

平成 23 年度

平成 23 年 7 月	みえライフイノベーション推進事業を開始
平成 23 年 7 月	みえメディカル研究会総会を開催
平成 23 年 7 月	三重大学産学官連携セミナー in 伊賀を開催
平成 23 年 8 月	薬科大学学生インターンシップ受入(7名)
平成 23 年 10 月	健康産業シンポジウム(主催: 北海道バイオ産業クラスター・フォーラムほか)にパネリストとして参加
平成 23 年 10 月	ウェルネスの旅を開催
平成 23 年 10 月	三重大学と瀋陽薬科大学とのワークショップを開催
平成 23 年 10 月	全国バイオクラスター交流会に参加(横浜市)
平成 23 年 11 月	プラチナ社会研究会食品機能性分科会に参加(主催: 新潟県、三菱総研)
平成 23 年 11 月	みえ統合医療講演会を多気町で開催

平成 23 年 11 月	尾鷲セラピスト養成講座を開講
平成 23 年 12 月	みえ福祉用具フォーラム 2011 を開催
平成 24 年 1 月	タイに薬事産業ミッションを派遣
平成 24 年 2 月	メディカルバレーフォーラムを開催
平成 24 年 2 月	メディカルバレーフォーラムでメディカルバレープロジェクトの取組等を紹介する展示会を併催
平成 24 年 2 月	三重大学発産学官連携セミナー in 伊賀を開催
平成 24 年 3 月	PMDA セミナーを三重大学で開催
平成 24 年 3 月	「尾鷲セラピストと行く熊野古道」ツアーを開催

みえメディカルバレー推進代表者会議委員名簿

(平成23年4月1日現在)

(順不同 敬称略)

氏名	役職	
内田 淳正	三重大学 学長	会長
村本 淳子	三重県立看護大学 学長	
作野 史朗	鈴鹿医療科学大学 学長	
宗村 南男	四日市大学 学長	
河野 啓子	四日市看護医療大学 学長	
中野 潤三	鈴鹿国際大学 学長	
佐藤 昭	三重中京大学 学長	
清水 潔	皇學館大学 学長	
高橋 誠記	鈴鹿工業高等専門学校 校長	
藤田 稔彦	鳥羽商船高等専門学校 校長	
神野 稔	近畿大学工業高等専門学校 校長	
竹田 寛	三重大学医学部附属病院 院長	
圓城寺 英夫	株式会社三重ティーエルオー 代表取締役社長	
加藤 正彦	社団法人三重県医師会 会長	
峰 正博	社団法人三重県歯科医師会 会長	
上村 武	社団法人三重県薬剤師会 会長	
水谷 良子	社団法人三重県看護協会 会長	
橋本 昌弘	一般社団法人三重県作業療法士会 会長	
田山 雅敏	三重県薬事工業会 会長	
辻 保彦	辻製油株式会社 代表取締役社長	
足立 清	中部経済産業局産業部 部長	
山口 和夫	三重県健康福祉部 部長	
山川 進	三重県農水商工部 理事(商工・科学技術担当)	
鈴木 宏治	みえメディカルバレー企画推進会議 会長	
豊田 長康	独立行政法人国立大学財務・経営センター 理事長	顧問

事務局：三重県健康福祉部薬務食品室

みえメディカルバレー企画推進会議委員名簿

(平成23年4月1日現在)

(順不同 敬称略)

氏名	役職	
稲川 武宣	三重大学人文学部 准教授	
須藤 啓広	三重大学大学院医学系研究科 教授	
西川 政勝	三重大学大学院医学系研究科 教授	
西村 訓弘	三重大学大学院医学系研究科 教授	
大西 和子	三重大学大学院医学系研究科 特任教授	
富田 昌弘	三重大学大学院工学研究科 教授	
勝崎 裕隆	三重大学大学院生物資源学研究科 准教授	
松井 純	三重大学社会連携研究センター 特任教授	
大西 範和	三重県立看護大学看護学部 教授	
長村 洋一	鈴鹿医療科学大学保健衛生学部 教授	
佐々木 和郎	鈴鹿医療科学大学鍼灸学部長 教授	
川西 正祐	鈴鹿医療科学大学薬学部長 教授	
鈴木 宏治	鈴鹿医療科学大学薬学部 教授	会長
岡 良浩	四日市大学経済学部 准教授	
後藤 由紀	四日市看護医療大学看護学部 准教授	
笠原 正嗣	皇學館大学現代日本社会学部 教授	
白井 達也	鈴鹿工業高等専門学校機械工学科 准教授	
山下 晃司	鳥羽商船高等専門学校電子機械工学科准教授 副テクノセンター長	
村田 圭治	近畿大学工業高等専門学校 教授 リエゾンセンター長	
河野 廉	名古屋大学社会貢献人材育成本部ビジネス人材育成センター特任教授	
藤永 稔夫	大日本住友製薬株式会社 鈴鹿工場長	
松岡 収	中外医薬生産株式会社 研究開発本部長	
西村 欣治	ロート製薬株式会社 上野工場長	
前山 薫	御木本製薬株式会社 取締役 研究開発・社長室担当	
西林 紀壽	有限会社菅原電機 相談役	
大久保 勉	太陽化学株式会社 ニュートリション事業部研究開発グループリーダー	
籠谷 和弘	辻製油株式会社 開発部第一研究室 室長	
岩田 則子	中部経済産業局 産業部製造産業課長	
服部 正興	株式会社百五経済研究所 地域調査部長	

事務局：三重県健康福祉部薬務食品室

みえメディカルバレー構想
第3期実施計画書

平成24年3月

みえメディカルバレー推進代表者会議

事務局

三重県健康福祉部薬務食品室

〒514-8570 津市広明町13

電話 059-224-2331 FAX059-224-2344

E-mail yakumus@pref.mie.jp